

“継続は力なり”

～一粒の麦が蒔かれ、芽吹き、多くの人たちの手によって、豊かな実りをもたらした～

群馬県甘楽町企画課課長補佐兼係長 五十里 比登志

イタリア共和国チェルタルド市

チェルタルド市は、イタリア共和国トスカーナ州フィレンツェ県に属し、人口約1万6,000人で、街並みは13世紀から14世紀の古い建物が連なる丘の上の町「チェルタルド・アルト」と呼ばれる旧城郭地域と丘の下の平坦地に新しい市街地が広がっています。

14世紀のイタリア文学の三巨星に数えられる作家ジョヴァンニ・ボッカチオの生誕の地であり、今でも生家が残っており、市民はこの地が彼を生んだことを何よりの誇りに思っています。

“一粒の麦” から始まった歴史

1983年4月県主催の「ふるさと巡回サロン」が町で開催され、イタリア人ジャーナリストのカルラ・ヴァシオ女史が、歴史を生かしたまちづくりを実践している甘楽町に感銘を受け、イタリア国内で自然的・文化的にも似通ったチェルタルド市との姉妹都市提携を提案されたのを機に、1983年10月20日に姉妹都市協定を締結しました。

「UN CHICCO D'ORZO」(ウン キッコドルツォ) イタリア語で「一粒の麦」の意で、締結された協定書の一節となっている言葉で、甘楽町とチェルタルド市が、友好の輪を世界に広め、平和のための先駆的役割を果たしたいという願いが込められています。

途切れることのない友情

交流事業は、公式使節団や青少年研修団の相互派遣をはじめ、ワインなどの輸入、絵画展や工芸品展の開催など積極的な事業を展開しています。

公式使節団は、1983年の第1次チェルタルド市訪問使節団と1984年の第1次甘楽町訪問使節団から数え12回の派遣と11回の受け入れを行ってきました。

町の中学生の派遣は、1986年の第1次研修団以来、定期的実施しており、今夏の実施で15回を迎えました。また、チェルタルド市青年使節団受け入れは、今夏で8回を迎えました。特に青少年相互派遣は、滞在中をホームステイで過ごすことにより、家族の一員となって異国の生活習慣や食文化を体験することでお互いを理解し合うことを目的としており、団員相互の家庭に泊まり合うことで、より密接な家族ぐるみの友好関係が築ける特徴的な内容になっています。

また、1985年から行っているチェルタルド産ワインの直輸入販売は、赤・白・ヴィンセント・グラッパを合わせ、扱っている品目は20種類を超え、オリーブオイルやバルサミコ酢を加えたイタリア特産品販売は、「道の駅甘楽」で大変な人気を誇っています。

さらに、2014年「道の駅甘楽」新装オープンに合わせてチェルタルド市タイル職人によるタイルで装飾されたピザ窯を新設しました。そこでは、本場の味と技術を習得するためにチェルタルド市のピッツェリアに3か月間修業派遣された職員が目の前でピザを焼き上げます。振る舞われる各種ピザは、現在多くのお客様に愛されています。

文化・芸術の交流としては、2007年に「手・心・詩～友情で結ばれた12人のマエストロ～」と題し、両市町の代表的な工芸作家6人ずつが協演した日伊工芸作品展覧会を、チェルタルド市・甘楽町・友好都市である東京都北区の3都市で開催しました。



イタリア直輸入ワイン(道の駅甘楽) ホームステイの様子

節目となる記念事業

(1) 提携10周年記念事業 (1993年)

甘楽町芸能使節団を派遣し、チェルタルド市の伝統祭り「メルカンティア」にて、日本の「舞踊」と「能」を披露し、両首長による共同宣言が行われたほか、(財)甘楽町国際交流振興協会の記念事業として、チェルタルド市のプレトリオ宮殿中庭に「茶室」(命名:甘楽庵)を寄贈することにより、日本の心と空間を伝え、今では交流のシンボルとなっています。

また、甘楽町において、チェルタルド市に所縁のある日本画家の柳沢正人氏による日本画展『刻(とき)』および記念講演会を開催しました。

(2) 提携20周年記念事業 (2004年)

第5次チェルタルド市使節団が来町し、イタリア街道記念碑除幕式、オリーブ記念植樹を行ったほか、両首長による共同宣言が行われました。

また、日本画家の柳沢正人氏とチェルタルド市在住画家のファビオ・カルヴェッティ氏の2人展『星を夢み、時空を超えて』を開催、同時に滝上祥一郎氏と松井千明氏が使節団員として訪伊した際に撮影した写真展を『中世の余光 チェルタルド』、『ボンジョルノ イタリア』と題して開催しました。

(3) 提携25周年記念事業 (2008年)

第10次甘楽町使節団を派遣し、プレトリオ宮殿で開催された姉妹都市提携25周年記念式典に参列するとともに、両首長による共同宣言が行われました。

式典では、茂原町長にチェルタルド市から名誉市民の称号が贈られ、25周年を祝う記念碑の除幕式、両国の国旗をモチーフとした記念モニュメント建立披露式が盛大に挙行されました。

(4) 提携30周年記念事業 (2013年) 於：チェルタルド市

第12次甘楽町使節団を派遣し、プレトリオ宮殿で開催された姉妹都市提携30周年記念式典に参列するとともに、共同宣言により

交流の歴史を振り返り、将来に向けた交流継続の再確認を行いました。さらに、設立されたチェルタルド市国際文化交流推



姉妹都市提携30周年記念式典
(於：チェルタルド市)

進協会と公益財団法人甘楽町国際交流振興協会による共同宣言も同時に行われ、今後も官民一体となった交流を推進することが約束されました。

また、「イタリアに日本の櫻を植樹する会」(渡部宣子会長)の協力を得て、町から桜苗木40本を「友好の桜」として贈呈しました。

(5) 提携30周年記念事業 (2014年) 於：甘楽町

第11次チェルタルド市使節団が来町し、姉妹都市提携30周年記念式典および「希望の橋」と命名した新橋完成披露式および記念モニュメント除幕式が挙行され、友好の証として共同宣言書を刻んだ記念碑を庁舎前に設置しました。式典には、在日本イタリア大使館ドメニコ・ジョルジ特命全権大使をはじめ多くの来賓にもご列席いただき、盛大に開催することができました。

また、記念事業としてチェルタルド市が所有する「現代のアーティストによるジョヴァンニ・ボッカチオのオマーージュ」(著書『デカメロン』の優れた説話の着想を得て現代の画家たちが描いた、混合技法によるデザインやさまざまな手法による作品からなる700点以上にのぼる絵画コレクション)から厳選された30作品を借り受け「ボッカチオ生誕700年記念絵画展」を開催しました。

作品の中には、日本人画家の稗田一穂氏をはじめ、柳沢正人氏、吉岡正人氏の作品も含まれ、オープニングセレモニーには、作者三氏ならびにチェルタルド市使節団のほか、多くの関係者も参列しました。

さらに豊かな実りを願って

「一粒の麦」を合言葉に、1983年以来培ってきた友好の絆は、異なる言葉や文化、習慣などさまざまな困難を乗り越え、お互いに理解しながら続けてきた交流によって強固なものとなり、両市町にとってかけがえのない財産となっています。

“継続は力なり”まずは続けることが重要です。そのためには、先人に感謝するとともに、信頼と連帯をもって取り組み、それらを新しい世代の人たちに継承することが重要です。

今後も、幅広い分野での交流事業を続けることにより、さらに緊密な信頼関係を築くとともに、両市町の協力によって、新たな「一粒の麦」が大きく豊かに実ることを願っています。